

「矢櫃地区歴史文化財」

和歌山県有田市

毎年1月に行われている「お日待ち」とは、徳川頼宣公が茂兵衛・くまと茂太夫・ちよめの夫婦を矢櫃の地に住ませ、矢櫃を永代免租としたことに感謝して行う330年以上続く祭りである。当初は徳川頼宣公の命日である1月10日に祭りを行っていたが、現在では1月の第2日曜・月曜に開催されるようになった。

日曜日に法要を行い、矢櫃地区の青年たちは心身を清めた後、南龍神社に参詣し、御祓いをうける。以前は海中に入って心身を清め、裸体のまま海岸の戎神社から神酒を奉持して南龍神社に走り詣でていた。参詣



矢櫃浦先祖の碑



矢櫃浦先祖の碑(全景)

の後、集会所に集まり敬老の催しなどを行い、夜は盛大な酒宴を張って語り明かす。そして月曜日の夜明けと共に数人の代表が頼宣公の好物である小豆一升を持って、下津町浜中の紀州徳川家の菩提寺である長法寺に代参する慣わしとなっている。

みどころ



- みかん・タチウオ・鵜飼の街：海と山に恵まれた有田市は、みかん生産量・タチウオ漁獲量ともに日本一を誇る。また夏に有田川で見られる鵜飼いは、鵜匠が鵜と一緒に松明火をかざしながら、川中を徒歩して鮎を捕る珍しい漁法である。
- 熊野古道：有田市の中央部を有田川が東西に流れ、それを横断するかのよう南北に約6kmの熊野古道が通る。海川を見下ろす遠望が素晴らしく、沿道には歴史を物語る数々の史跡が所在している。